

私たちの活動や意見を平和委員会のなかまたち に伝えます
私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

土浦平和の会

ニュースNo. 202 2008年12月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

http://www.geocities.jp/ino011_jp/

67年目の 太平洋戦争開戦の日

12月1日の御前会議において日米開戦を決定し、8日ハワイ真珠湾攻撃によって始まった太平洋戦争から67年が過ぎました。この日茨城県母親大会連絡会は“平和を守る母親行動”として、土浦駅において早朝「赤紙」配りを行いました。母親連絡会の呼びかけに応じて新日本婦人の会土浦支部、憲法九条土浦の会、年金者組合土浦支部、土浦平和の会などの15人が「二度と戦争を繰り返さないために」という思いをこめて、7時から約1時間土浦駅の東口・西口で800枚の「赤紙」配りをおこないました。毎年恒例の行事ですが学生の中には受け取ろうとしない人もいて、戦争を知らない若者たちに毎年訴えていく地道な行動が必要だと感じます。

ビデオd e 学習会 (12月8日)



平和の会の平和行事として計画したビデオ学習会「ヒバクシャ～世界の終わりに」が予定通り8日午後4中地区公民館の視聴覚室でおこなわれました。大スクリーンに映し出されたイラクの子供たちの白血病に苦しむ痛々しい姿が、湾岸戦争に使われた劣化ウラン弾の低線量放射能のせいだと語られ、「ブッシュがおれたちの生活を破壊した。おれたちの国を破壊した。」と叫ぶ人たち。湾岸戦争の大ブッシュに続いて、今のイラク戦争を続けているブッシュに対するイラクの民衆の恨みの深さを知らされます。

さらに、画面はアメリカのワシントン州ハンフォードの核物質生産施設周辺に住む人たちの長年にわたる健康破壊の実態を訴えます。そこにはナガサキに投下されたプルトニウム型原爆を作った核施設や2つの原子力発電所があり、風下にある広大な農場ではポテトチップスの原料にするジャガイモや家畜のえさになるとうもろこしが生産され、その大半は日本向けに輸出されているといえます。その家族たちの中でガンが多発したり、ほとんどの女性が流産を経験しているという実態が語られますが、政府に対して保障を求める住民の運動がある一方で、作物の豊かな実りに満足している農民の姿や、低レベル放射能の影響は実証されていないと主張する学者の意見もあるという地域住民の亀裂も描き出されます。しかし、この施設で保管されている約10トンの放射性廃棄物から流れ出る放射能を含んだ地下水がポトマック川に向かって広がっていること、その下流では水道水の採取が行われていること、やがては海にも汚染が広がることを防ぐ方法がないということを警告しています。

現地調査に入った肥田舜太郎医師の告発はもっと深刻な影響を物語っています。日本での乳がんの発症件数の調査から、チェルノブイリの事故の10年後をピークにして北海道から北陸地方の日本海側で顕著な増加が見られることから、原発事故が世界中の環境汚染をもたらしていることを物語り、さらに、放射能はDNAを傷つけて人類の子孫にまで影響をもたらすであろうと警告しています。遺伝学者はその影響がひ孫の時代に顕著に出てくるであろうと語っています。(井上)

平和の会ニュース、平和かわら版 (PDF版) 配信しています

平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122
早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください

